

第14回

# 中学生訪中親善使節団報告書

平成18年3月25日(土)～3月30日(木) 6日間

上海・南昌・北京



財団法人

Takamatsu International Association

高松市国際交流協会

# 目 次

|              |       |   |
|--------------|-------|---|
| I 団 員 名 簿    | ..... | 1 |
| II 日 程       | ..... | 2 |
| III 使節団の活動状況 | ..... | 3 |
| IV 感 想 文     | ..... | 9 |

## 第14回中学生訪中親善使節団団員名簿

|       |           |             |                   |                    |                    |
|-------|-----------|-------------|-------------------|--------------------|--------------------|
| 団 長   | ひらの<br>平野 | キャサリン       | 財団法人高松市国際交流協会理事   |                    |                    |
| 同行保健師 | いけ<br>池   | うちあき<br>内 明 | 高松市保健センター保健師長     |                    |                    |
| 同行職員  | たちばな<br>橋 | ゆきこ<br>由紀子  | 財団法人高松市国際交流協会事務局員 |                    |                    |
| 団 員   | にし<br>西   | おあや<br>尾 綾  | 乃                 | 香川大学教育学部附属高松中学校 2年 |                    |
| 〳     | たか<br>高   | ぎ<br>木      | ゆき                | 高松市立桜町中学校 1年       |                    |
| 〳     | もり<br>森   | けん<br>健     | た                 | 高松市立木太中学校 2年       |                    |
| 〳     | くに<br>国   | さわ<br>澤     | ゆきこ<br>由希子        | 高松市立木太中学校 2年       |                    |
| 〳     | た<br>田    | なか<br>中     | しゅん<br>舜          | 高松市立龍雲中学校 1年       |                    |
| 〳     | しの<br>篠   | なが<br>永     | しょう<br>将          | た                  | 高松市立紫雲中学校 1年       |
| 〳     | にし<br>西   | あき<br>綾     | きこ<br>希子          | 高松市立古高松中学校 2年      |                    |
| 〳     | つち<br>土   | や<br>屋      | さ<br>紗            | ら                  | 高松市立鶴尾中学校 2年       |
| 〳     | こう<br>河   | の<br>野      | あり<br>有           | さ                  | 高松市立鶴尾中学校 2年       |
| 〳     | ばん<br>坂   | どう<br>東     | さと<br>里           | み                  | 高松市立龍雲中学校 2年       |
| 〳     | たけ<br>竹   | うち<br>内     | ゆう<br>優           | こ                  | 高松市立光洋中学校 1年       |
| 〳     | うえ<br>上   | えだ<br>枝     | り<br>里            | えこ<br>依子           | 高松市立龍雲中学校 2年       |
| 〳     | なか<br>中   | むら<br>村     | し<br>志            | おり<br>織            | 香川大学教育学部附属高松中学校 2年 |
| 〳     | たに<br>谷   | もと<br>本     | ひろ<br>浩           | かず<br>一            | 香川大学教育学部附属高松中学校 2年 |
| 〳     | みや<br>宮   | わき<br>脇     | ま<br>万            | りん<br>鈴            | 香川大学教育学部附属高松中学校 1年 |
| 〳     | しば<br>柴   | た<br>田      | あ<br>明            | ゆみ<br>有美           | 高松市立紫雲中学校 1年       |
| 〳     | い<br>井    | がき<br>垣     | あ<br>あ            | かね<br>かね           | 高松市立紫雲中学校 1年       |

## 第14回中学生訪中親善使節団日程

| 日次 | 月日(曜)        | 主 な 行 事  | 宿 泊  |
|----|--------------|--|--|
| 1  | 3月25日<br>(土) | 8:00 アイパル正面玄関集合<br>8:30 高松発(専用バス)<br>12:00 関西空港着<br>13:55 関西空港発(中国東方航空 MU516)<br>15:35 上海浦東国際空港着<br>東方明珠テレビ塔、外灘<br>南京路、黄浦江等見学  | 上 海 泊<br>上海広場暇日大酒店<br>上海市天目西路285号<br>TEL:021-6353-8008               |
| 2  | 3月26日<br>(日) | 上海動物園、上海博物館<br>玉仏寺等見学<br>17:50 上海発(夜行列車K287)→南昌へ   | 車 中 泊  |
| 3  | 3月27日<br>(月) | 7:31 南昌駅着<br>8:20 朝食<br>9:00 南昌高松中日友好書画作品展開幕式出席<br>9:30 紅谷灘、秋水広場見学<br>10:50 滕王閣見学<br>12:00 昼食<br>13:30 八一起義記念館へ出発<br>15:00 八大山人記念館へ出発<br>15:30 八大山人記念館見学<br>17:30 南昌市人民政府を表敬訪問<br>18:00 歓迎会<br>19:30 ホームステイ(ホストファミリー出迎え) | 南 昌 泊<br><br>ホームステイ<br>引率者は日中友好会館<br>南昌市湖浜南路28号<br>TEL:0791-852-0216 |
| 4  | 3月28日<br>(火) | 8:30 日中友好会館集合<br>9:00 南昌市鐵路第一中学校へ出発<br>9:30 南昌市鐵路第一中学校にて交流<br>12:00 昼食会<br>14:00 万寿宮、八一広場見学<br>17:00 ホームステイ(ホストファミリー出迎え)<br>18:00 夕食(団長等)<br>20:00 ホームステイ先訪問(団長等)  | 南 昌 泊<br><br>ホームステイ<br>引率者は日中友好会館                                    |
| 5  | 3月29日<br>(水) | 6:10 日中友好会館集合<br>6:25 南昌空港へ出発<br>7:45 南昌空港発(MU5173)<br>北京空港着<br>北京市内見学<br>故宮博物館、天安門広場、万里の長城等   | 北 京 泊<br><br>北京広州大廈大酒店<br>北京市西単横2条甲3号<br>TEL:010-5855-9988           |
| 6  | 3月30日<br>(木) | ホテル出発<br>北京空港着<br>9:55 北京空港発(中国東方航空 MU513)<br>煙台空港着 《経由》<br>煙台空港発 《経由》<br>15:30 関西国際空港着<br>16:30 関西国際空港発(専用バス)<br>20:00 高松着(アイパル正面玄関前にて解散)   |  |

## 使節団の活動状況

3月25日(土)

●高松～上海

朝からとてもいいお天気。それもこれも派遣団員の日ごろの行いがよいおかげ。このまま帰国するまで、いいお天気にめぐまれますように。

出発式を終えて、家族や学校の先生たちに見送られて関空へ出発！と同時に始まる「大UNO大会」。初日からそんなに飛ばしてたら、南昌あたりでエネルギー不足になるんじゃないか？というくらい大騒ぎ。

関空から上海へ。機内食を受け取る時に外国語で話しかけられる。「BEEF? or PORK?」。落ち着けば聞き取れるはずの英語。これからは団員同士以外では日本語は通じない。

春休み初日ということもあるのか、上海の税関は大混雑。空港についてから外に出るまで1時間強もかかる。待つのも経験、我慢しましょう。

なんとか手続きも終わり、南昌市外事弁公室の曾建民さんと合流できて一安心。早速、東方明珠塔へ。360度のパノラマから中国最大の経済都市といわれる上海の夜景を堪能した。

夜、初めての中華料理。本場の中華料理に歓声があがる。とてもおいしかったので、お皿はあっという間に空っぽ。中学生たちは食欲旺盛、元気いっぱい。



東方明珠塔



上海の町はイルミネーションで美しく演出されていて感動しました。  
(国澤さん)

テレビ塔の周辺は高層ビルのオンパレード！(西さん)

3月26日(日)

●上海～南昌

ホテルでバイキングの朝食を食べて、動物園へ。

ガイドの周さんが「相談があるんですけど・・・」と暗い顔でやってきた。話をきくと、パンダが全部、四川省へ里帰りをしていてここにはいないという。しかし、せっかく動物園に来たのだからと、カートに乗って園内へ。キリンやシロクマなどを見る。



動物園なのに公園のようだった。(竹内さん)

動物園で凧揚げや太極拳をしている人が多かった。(井垣さん)

動物園のあと、お土産屋さんへ。ちょっと高めのお土産をみて玉仏寺へ。ミャンマーからの翡翠の釈迦像を見学。日本のお寺の様子とは違った雰囲気。中国風のお参りのやり方を真似てみる子もちらほら。



人がいっぱいではぐれてしまいそうだ。(森くん)

昼食のあとは南京路で自由行動。集合時間に戻ってきた団員たちの手にはお菓子でいっぱいの袋が。言葉が通じないなかでの買い物は案外楽しかったようだ。



日本の漫画やアニメがたくさんあった。(中村さん)  
 いろんな人に声をかけられて少しこわかった。(河野さん)  
 マックを見つけたけど、字が読めなかった。(谷本くん)



夜行列車の待合室で

南京路を満喫したあと、上海博物館へ。国宝級のものも多く、衣装や、青銅などさまざまなコーナーに分かれており、全部をゆっくりみるとなると1日はかかりそうなほどである。

南昌行きの夜行列車に乗るために上海駅へ。晩御飯はマクドナルドのスパイシーマックチキン。ほんとうにスパイシーだった。列車のなかでもやはり「UNO大会」が繰り広げられていたらしい。まだまだ元気。

3月27日(月)

●南昌

朝、車窓は雨模様。

南昌駅に到着すると、張知明主任さんや、外事弁公室の職員さんたちが出迎えてくださっていた。友好会館で朝食を済ませているあいだに雨はあがったらしい。朝食後、南昌市役所で、南昌高松中日友好書画作品展のオープニングに全員で出席。篠永君が、南昌日報という新聞社の取材を受ける。どのような記事になるのか楽しみ。

市役所を後にして、秋水広場へ。本当は噴水が動く時間ではなかったのだが、張知明さんの配慮で噴水をだしてくれた。偶然、江西大宇学院の日本語科の学生が大勢いて、思いもよらず交流が始まった。中国の学生は積極的で、どんどん日本語で団員に話しかけている。彼らの積極性は見習うべきところだ。このあとの見学もあるので、団員たちにはバスに戻ってもらって『ハウレンソウ』。この点呼の方法は、前回から引き継いだもの。すっかり定着し、ガイドの彭さんも点呼の度に大きな声で『ハウレンソウ!』。気に入ったらしい。

秋水広場を離れて滕王閣へ。唐の時代に建てられた江南三大建築物の一つであるという。楼閣の上から南昌市を一望。その後、八大山人記念館、八一起義記念館を見学した。



中国の人は絵を描くのが上手いと思った。(篠永くん)

いよいよ市長表敬。中国語で自己紹介をするときがやってきた。研修のときに一生懸命練習し

たとおり、元気に自己紹介ができてほっと一安心。李豆羅市長も「上手に自己紹介ができるんですね。」とほめてくれた。



市長表敬は緊張したけど、市長さんはやさしくて気さくな方だった。  
(柴田さん)

市長表敬のあと、市長さんから夕食に招待された。書道家でもある李豆羅市長が、みんなにサインをしてくれたり、個別に記念撮影をしてくれたりした。



カエルの肉がでてきてびっくり。意外とおいしかった。(坂東さん)

夕食を終えて、友好会館に戻るとたくさんの高級車が所狭しと停まっていた。ホストファミリーたちが団員を迎えに来てくれているのだ。花束をもらった子、ぬいぐるみもらった子、家族全員で迎えに来てくれた子など、思った以上の大歓迎を受けていた。最初は表情が強ばっていた子もあつという間にホストファミリーと打ち解けたようで、それぞれのホームステイ先へ帰って行った。みんな、ホストファミリーとどんな話をするんだろう。



中日友好書画作品展オープニングセレモニー



南昌の日本語科の学生たちと



市長さんと

**3月28日(火)**

●南昌

朝、ホストファミリーと一緒に友好会館へ帰ってきた団員たち。おはようのあいさつもそこそこに、昨夜の状況やホストファミリーとの交流を我先にと報告してくれた。なかなかおもしろかったようだ。案ずるより～ということわざどおりだ。なかには、言いたい事がうまく伝えられなくてもどかしい思いをした子もいたが、それも貴重な経験だ。



ホストファミリーは英語が上手だった。(宮脇さん)

南昌市鐵路第一中学校へ。今日は研修の成果を見せる日。正門をくぐると南昌市鐵路第一中学校の4人の校長先生や担当教諭、中学生たちが出迎えてくれていた。なんと校長先生が4人もいるのだ。どれだけ大きな学校なんだろうか。

大勢の学生の拍手に迎えられて、校舎の最上階の講堂へ入った。南昌側の中学生の司会で交流会が始まった。中国側の演技は本格的だ。だいぶ時間をかけて練習しているのだろう。書道もみごとなものだった。

一方われわれはどうだったかといえば、ゲームやおどりも中国側の積極的な参加により、大いに盛り上がったし、「さくら」「さくらさくら」の合唱もすばらしい出来だった。研修のときの何倍も上手で、団員たちの本番の強さを見せてもらった気がした。すばらしい団結力だ。

途中でテレビ局のインタビューが入る。今回は谷本君にお願いした。英語でのインタビューだったが、上手く答えられた様子。

交流会のあと、バイキングの昼食をとる。交流会のあとということ、中国の子供たちともかなりうちとけている様子だ。



交流会でゲーム



交流会が楽しかった。お昼ごはんのときも話が弾んでよかった。(田中くん)

お昼ごはんを食べてから、万寿宮へ。結婚式の前写しをしているカップルがたくさんいた。道教の寺院には僧侶が道教の衣をまとっていた。仏教の袈裟とは違った独特のもの。日本ではなかなか見る機会がない。

ようやくショッピングへ。中国へ着いてからずっと「いつ買い物できるん？」と聞かれ続けていたほどなので、ウォールマートに入った途端、クモの子を散らすようになくなってしまった。たくさんお土産を買っているんだろうとは予想していたが、ソフトクリームまで食べているとは思わなかった。さすが、おやつに目ざとい。

夕方になって、再びホームステイへ。



UNOと一緒にやったりして面白かった。(土屋さん)  
ホストファミリーと別れるのが悲しい。  
今度は英語も中国語も上手になって来たいな。(高木さん)



3月29日(水)

●南昌～北京

早朝6時10分集合。ホストファミリーとはお別れ。たった二泊三日のホームステイだったのに、やはり別れるのはつらいようだ。つついもらい泣きしてしまう。ホストファミリーからたくさんのおみやげをもらっていた。帰ったらお礼の手紙を出すのを忘れないように。

いよいよ北京へ。昼食を食べてから天安門広場、故宮を見学した。テレビでよくみる天安門を目の前にして、「でかーい」「ひろーい」を連発。あいにく故宮は改装中のところが多かったが、映画『ラストエンペラー』でおなじみの光景を見ることができた。



皇帝みたいな贅沢な暮らしはどんな感じなんだろう。(上枝さん)  
天安門の警備員さんはピクリとも動かなかった。(西尾さん)

故宮のあとは、万里の長城へ向かう。今までハードスケジュールが続いていたし、朝からずっと歩きっぱなしだったので、そろそろ体力の限界かなと思っていたが、男坂と女坂を両方とも登ったという子が多かった。中学生に限界はないらしい。長城からの眺めは絶景で、悠久の歴史に触れられる場所だった。

市内に戻ってきて晩ごはん。待ちに待った「北京ダック」を食べるときだ。北京ダックを目の前で取り分けてくれるその手さばきに、みんな興味津々。食欲旺盛な胃袋にどんどん北京ダックがおさまっていった。



万里の長城

3月30日(木)

●北京～高松

とうとう今日は高松へ帰る日。朝ごはんもそこそこにバスに乗り込んで北京空港へ。

北京でガイドしてくれた果さんや、6日間同行してくれた曾さんともお別れ。途中煙台空港で出国手続きを済ませて飛行機に乗り込んだ。

高松に着いたころには、とっくに日が暮れていた。そのうえ寒かった。そんな中を家族や関係者の方々が出迎えてくれていた。6日前の団員たちと比べて何か成長は見られただろうか。

短い期間ではあったが、高松では得られない貴重な体験や、多くの出会いがあったし、立派に友好親善を果たして来たと思う。これからの将来や国際交流にも大きく役立ってくれることを期待している。

最後に、団員たちを温かく送り出してくださったご家族の皆様、中国での手配をしてくださった南昌市外事弁公室の職員の皆様、ホストファミリーや学校関係者の皆様、また高松市側の関係者の皆様、様々な手配をして下さった皆様にお礼申し上げます。

# 感 想 文

## 両国の子どもたちに励まされて



(財)高松市国際交流協会  
理事  
平野キャサリン

私の机には今、李豆羅南昌市長先生から頂いたすばらしいサイン入りの歓迎カードが飾ってあります。このカードを見るたびに、中国での6日間に会った皆さんの顔が思い浮かんできます。中国についての勉強、観光、そして交流、6日間がその三倍の長さを感じられるほど予定がぎっしりと詰まっていたのに、あっという間に過ぎてしまいました。

団長の話をしていただいた時、正直、びっくりしました。高松が大好きな高松市民の1人ではあっても、日本人ではない私なのに、これで本当にいいのだろうかと不安でした。出発の日が近づくにつれ、不安がますます募りました。しかし、同時にこの親善使節団の目的、特に日中の中学生同士が交流することに深い意義を感じ、使命感も強く感じました。胸には期待もどんどんふくらんできました。とにかく、自分は微力で不適切な団長ではないだろうかと思い悩むよりも、両国の子ども、そして両市の交流歴と人材を信じることにしようと決意したのです。そして今は、その決断を後悔していません。

旅にはもう慣れっことで、しかも疲れている中年の私にとって、中学生たちのパワーは救いでした。中学生たちにとってはすべてのものが新鮮で、そういう彼らの反応が面白くて、刺激になりました。はじめて飛行機に乗る子どもたちの不安な顔や離陸するときの「オオオー！」という興奮した声。張主任さんの特別な手配で南昌市の噴水が急に吹き上がるのを見て輝いた瞳。彼らはいつもフル回転で、素直に一生懸命周りの人と友達になろう、中国のことをもっと知ろうという姿勢を持っていて、励みになりました。その素直さと元気さにはずっと支えられました。

頭に焼きついている光景がいくつもあります。もちろん、滕王閣、万里の長城など、中国の偉大な文化を示す景色もそのなかに入ります。しかし、それよりもさらに強く焼きついているのは、団員の交流の姿です。南昌市内のホームステイの前の、彼らの不安そうな顔、ホームステイの途中で言葉がうまく通じなくて悔し涙を流す姿、それを心配そうな顔で見守る中国の家族、お互いに身振り手振りで相手に訴えかけて言葉の壁を乗り越える姿、そして、最後の涙の別れ、どれも一生忘れられません。

ホームステイ先のホストファミリー、訪問した中学校の先生方と生徒さん、皆さんとても優秀で優しく、自分の身内のように心温かく受け入れてくださいました。それを見て、この親善使節団の意義を強く感じました。たったの数日間でしたが、中国で出会った人たちとこのような絆ができたからこそ、今回見てきた中国が、団員たちのこれからの人生のなかで生きてくると思えます。「あそこには、私を受け入れてくれた温かい家族、南昌市民、そういった中国の人たちがたくさんいるんだ」と、きっとこれから中国のことをいっそう身近に感じることを思っています。私は、このようにして相手と同じ人間として受け入れ、関心をもつことから、世界が本当の意味での平和を確立できると信じています。

今は感謝の気持ちでいっぱいです。訪中親善使節団に会うためにわざわざ時間を作ってくださった、国際交流に熱心な李豆羅市長先生、この企画をすべて成功に導き、心のこもった配慮をしてくださった南昌市の外事弁公室主任の張さん、上海から北京までずっと付き添ってくださった忍耐強く明るい曾さん、微力な私を中国へ派遣してくださった高松市国際交流協会、そしてずっと支えてくださった引率者と団員の皆さんに、心から感謝しております。

是非また中国に行きたいです。そして、南昌市の皆さんの来高を待っています。



南昌市人民政府にて

## 訪中親善使節団とともに



高松市保健センター  
保健師長  
池内明子

訪中親善使節団の話があった時には、使節団の引率とともに中国観光との認識でした。

しばらくぶりの海外旅行で、しかも、元気でかわいい中学生17人、引率者が、平野団長さん（英語は任せて）と、協会の橘さん（中国語は大丈夫）でしたので、安心感がありました。事前研修会では、健康管理や常備薬持参について説明があり、「池内さん、これが、救護かばんの中身の一覧です。」と説明を受けた時も、救護かばんが多少大きく重かったのですが、前回の救護担当者の「救護の出番は少なかった。」という報告に、心配はありませんでした。

それが、大変な思い違いであったのを認識したのは、関空に着いた直後からです。乗り物酔いで気分が悪いと報告があり、「酔い止め薬は？」聞くと、にっこりして「持っていません。」「えっ。」救護かばんから取り出しながら、かさばる中身についてやっと理解ができました。救護の役割と責任上、交通移動や防寒対策、食べ過ぎ・食あたり等の胃腸や、感冒等の感染症対策、そして、事故・怪我等を考えて携行品を詰めると、スーツケースも制限重量ぎりぎりになっていました。

訪中親善使節団の日程は、上海観光の後、目的地である南昌市まで夜行列車で移動するものでした。団員は、海外旅行が初めての者がほとんどで、不安・期待・緊張のため興奮冷めやらぬ状態でしたので、体調管理が気になりました。団員の一人が感冒様の症状を訴えたため、持参の薬を服用させ、マスク着用や行動制限等で、様子を見ることにしました。

それからは、団員一人一人が、元気よく南昌市での交流や、ホームステイに参加できるように気持ちを切り替えて、団員の行動を観察するとともに、体調についても積極的に声をかけました。団員も素直に健康状態を報告してくれましたが、身体的な症状だけでも、6日間で、発熱、咳、頭痛、倦怠感、腰痛、ふらつき感、あつけ、胸のむかつき、鼻血、嘔吐、便秘、擦り傷等、たくさんの報告があり、その度に経過を観察したり、救護かばんから携行薬を取り出したり、持参薬の服用を指示したりしました。

今回、救護という役割に集中できたことは、引率の責任が果たせたということでしょうか。高松に帰着後、周囲の人から、「訪中の感想は？」と聞かれ、「全員、無事に高松に帰着できたことがよかったです。」と答えています。南昌市での交流等については、平野団長さんをはじめ、団員の報告のとおりです。

最後になりましたが、今回の訪中に際しまして、平野団長様、協会の橘様に大変お世話になりました。団員の皆さんの今後の活躍を期待しつつ、高松市国際交流協会のますますの発展を祈念して報告を終えます。



上海動物園

## 限りない可能性を感じて



(財)高松市国際交流協会  
事務局員  
橋 由紀子

中国へ行くのはプライベートを含めて今回で7回目になる。中学生訪中親善使節団の引率として中学生たちと中国へ行くのは、今回で2回目である。しかも、毎年この使節団で中国へ行った中学生たちの研修状況を知り、報告書を拝見しているので、大体の流れや状況は理解しているつもりだった。しかし、中国へ一緒に行く中学生は毎年変わり、中国の様子やシステムもどんどん変化していることもあり、なにが起こるかわからない不安が頭から離れず、出発前はかなり緊張していた。

それなのに、私の緊張とは裏腹に、団員たちのあの盛り上がりはどういうことだろう。まったく緊張感が感じられないというか、おおらかというか。まったくうらやましい限りである。彼らはアイパルを出発してからアイパルへ帰ってくるまで、ずっと元気だった。実はその元気に中国滞在中はかなり助けられたところもあり、大いに感謝している。

元気な団員たちは、南昌市でもエネルギーが満ち溢っていた。さすがに市長表敬では緊張していたようだが、後の夕食会では李豆羅市長に握手を求めたり、写真撮影をしてもらったりかなり積極的だった。見ているほうはヒヤヒヤしたが、李豆羅市長が気さくに応えてくださってホッとした。

南昌市鐵路第一中学校での交流も、立派なものだった。元気に加えて、堂々と自信に満ちていた。「中国の学生と一緒に楽しもう！」という気持ちがビシビシ伝わってきた。もちろん中国側の学生も積極的で、日中の学生同士が大きく一つにまとまった感じがした。言葉も通じない中で、たった一時間ほどでこれだけの成果を挙げるとは、驚くべきものだ。中学生の力はすごい。本当にすごい。

ホームステイでは、あんなことがあった、こんなことがあったと団員たちからの報告を次々に聞くところによると、ホストファミリーの大歓迎を受け、いろいろと収穫があったようだ。環境が違う、習慣が違う、言葉が通じないところで、彼らなりにがんばったんだろうと思う。子供たちを受け入れてくださったホストファミリーの方々の多方面にわたる気配りに、心から感謝したい。

こうして6日間を無事に過ごすことができたのも、受け入れてくださった南昌外事弁公室の張知明主任さんを初めとする職員の皆様や、南昌市鐵路第一中学校の皆様、6日間同行してくれた曾建民さん、また、高松市側の関係者の皆様のご配慮のおかげである。ありがとうございました。それと、いろいろあったけど、6日間ずっとエネルギーをくれた団員たちにも、大きな「謝謝！」を言いたい。



交流会は大成功

## 驚きと発見でいっぱい中国!!



附属高松中学校  
西尾綾乃

上海浦東国際空港に到着してこれから5泊6日という長い旅が始まるんだと実感した。まず私は、人の多さに驚いた。中国は、人口が世界一ということは前々から知っていたが、こんなに人がいるなんて想像もしなかった。見わたすかぎり人・人・人・人だった。この光景に私はア然とした。空港を出てバスに乗りこみ東方明珠テレビ塔へ向かった。バス中からふと外の風景を見て私は再び驚いた。外は高層ビルのオンパレードだった。形がとてモアにあふれ、ビル一つ一つが芸術作品のようにも思えた。道路は、飛行機の滑走路ぐらい大きかった。香川では、普通道と高速道路で道路が上下に2本だが、中国では、複雑に交差して多いところでは3本も道路が交わっていた。上海は、まるでドラえもんの住む世界のような現実離れしている夢の都市だった。

2日目は、上海動物園と玉仏寺と南京路へ行った。南京路では、初めて外国で値切りに挑戦してみた。店員に英語で話しかけても通じなかったので、カバンから急いで紙とペンを取り出し筆談をした。一生懸命値切り交渉したので少し安くなった。他国の人に自分の気持ちを伝えるのは本当に難しいと改めて実感した。夕方、夜行列車に乗り南昌へ向かった。到着後、市内見学をした。どこの見学をしてもいつも頭の中にはホームステイへの期待と不安がよぎった。そして、夕方運命の瞬間がやってきた。ドキドキソワソワしながら対面した。名前は、心怡ちゃん。心怡ちゃんの手には大きな花束が。そして、その花束を「Present for you!」と言いながらくれた。こんなに歓迎してくれると思わなかったので、本当に嬉しかった。家に向かう途中の車の中で中国語で自己紹介をした後、趣味や部活のことなど英語で話した。家に到着して早速トランプをした。神経衰弱を2時間もした。本当に楽しそうにカードを選んでる心怡ちゃんを見てホッとした。時々、2人そろって意味もなく笑ったりした。「笑う」というのは、本当に「NO BORDER」だと思った。笑うだけで場を和ませたり、明るく楽しませたりできるなんてスゴイと思った。ホームステイ2日目。南昌市鉄路第一中学校を訪問した。中国の伝統文化を間近で見れて本当に良かった。外に一步出ると噴水や陸上用の大きなトラック、そして6つのバスケットボールコートが敷地内にあった。まるで大きな公園のようだった。夕方は、心怡ちゃんのいとこと一緒に秋水広場に行ってキレイな噴水の前で写真を撮るたくさん撮った。

「あっ」という間のホームステイの後、南昌を後にして北京へ向かった。万里の長城などスケールが大きすぎて自分があたかも小さくなったのかと思ってしまった。

中国の旅では、驚きと発見の連続だった。最初は、不安でいっぱいだった。しかし、中国に行ってみて不安が全部なくなった。本当に行ってみて良かったと心から思える旅行だった。一生忘れない最高の経験だった!! 中国最高!!



心怡ちゃんと



ぱくっ

## 私の国際交流



高松市立桜町中学校  
高木 ゆき

中国に行くという実感の無いままアイパル香川を発った3月25日。飛行機を降りるとそこはもう人口13億人の国、中国でした。その日はテレビ塔の大きさや人の多さにただ驚くばかりでした。

やっと実感が出てきた2日目は上海動物園や博物館などを見学しました。残念ながらパンダは里帰りのため観ることができませんでしたが、博物館では中国の歴史や伝統などに触れることが出来ました。また、夜行列車にのり、友達や先輩と遅くまで話をし、本当に楽しかったです。

3日目、夜行列車で友好都市、南昌市に到着し、それから「秋水広場」という所で噴水を見ました。そこで大学で日本語を習っているという中国人の学生の方に会ったのですが、私たちが日本人だと知るととても嬉しそうにして、写真をたくさん一緒に撮りました。とても友好的で元気な人ばかりだったので、噴水を見ることも忘れてしまいそうになるほど楽しかったです。夕方市長さんに会った後、とうとう一番不安だったホームステイが始まりました。日中友好会館で初めて会ったホームステイ先の女の子、シンイーちゃんは同い年でした。私より背が高く、まるでお姉さんみたいでした。その日は緊張していて、殆ど話すことがありませんでしたが、私の家族や日本のアニメのことなどを紹介することは出来ました。

4日目は南昌市鉄路第一中学校訪問です。日本の中学校よりキャンパスがずっと大きくて、中学生たちが私たちを民族舞踊や歌などで歓迎してくれました。そして私達も高松での三回の事前研修で用意した歌やゲームなどを一生懸命披露しました。その後、三日目より早くホームステイ先に帰りました。帰ってすぐシンイーちゃんとバドミントンをして、お母さんの作ってくれた夕食を食べました。少しからかったけれどとても美味しかったので、たくさん食べることができました。食べ終わった後シンイーちゃんの友達と三人で日本のことを話しながら、お店に行き、プレスレットを買ってもらったり、写真をとったりしました。それからお友達の家に行き、アニメを見ました。その友達が日本のアニメが大好きで、いろいろな事を身振りや声で教えてくれたり聞いたりしました。英語が分からなくてもジェスチャーでここまで通じるのだと分かり、改めて表現力って大切だなと思いました。また、親切にしてくれるホストファミリーを見て、私を歓迎してくれる気持ちを感じ、とても嬉しかったです。



友達と上海動物園にて



ホストファミリーの子と

5日目の朝、ホストファミリーの人たちにお別れの挨拶をして飛行機に乗って北京に向かいました。二日間という短い時間でしたが、中国の方の温かい心に触れることが出来、充実したホームステイでよかったと思いました。北京では故宮や万里の長城を見ました。故宮は中国らしく大きくて豪華でとても美しかったです。百年前まではここに王様が住んでいたと思うと不思議な気持ちになりました。万里の長城では先輩と女坂を登りました。女坂といっても傾斜がとても急で、上まで行くと中国が全部見渡せそうなくらい高かったです。本当に先が見えなくてこんなものを何千年も前の人間が作ったなんて信じられませんでした。とても疲れたけど良い思い出になりました。

私は正直、この旅行の前までは中国人の人に「怖い」イメージがありました。軍隊がいっぱいあって平和でない国、日本を敵対視している国だと思っていました。でもこの旅の間にメールで今もやり取りを続けているホストファミリーを含めた様々な人と出会い、考えが変わりました。今は必ずしも中国人全てが日本人に対して同じように敵対的な考えをもっているとはいえない、と実感として思います。私は少しずつではありますがこの直に感じた感想を周りの人に話していきたいと思っています。「中国は友達だ」と。最後に平野先生や引率の先生、そして共に旅をした先輩や友達に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。「謝謝。」

## 謝 謝 ！ 中 国



高松市立木太中学校  
森 健 太

中国へと出発する3月25日、僕は緊張のあまり頭がまっしろになっていた。でも、この6日間を楽しむという気持ちだけは忘れないようにしていき、中国訪問で3つの目標の実現をめざした。

1つ目は、ホームステイを体験することである。この目標は思っていたより簡単に実現できた。ホストファミリーの人たちとの会話で僕が心がけていたことは、必ず笑顔で聞き、そしてジェスチャーをしながら話すことだ。こうすることで、コミュニケーションもとれて、互いに知りたかった言語もすぐに分かることができた。会話の他にも、南昌のスーパーに買い物に行き、中国のお菓子の種類の多さと値段の安さに驚いた。ツアン君がスーパーの中を案内してくれて中国だけにしかない食材もたくさんあることを教えてくれた中で、カエルの肉が売っているのには怖くなったけど、中国では高級な食べ物らしくめったに食べられないそうだ。僕も1回食べたけど、鳥肉に近い味がした。南昌の小学生の人たちといっしょにバスケの試合をしたが、僕のいるチームはツアン君のチームに30対0で負けてしまったが、みんなと楽しめたことがうれしかった。ツアン君と日本の紙ふうせんで打ちあいをしたり、高松おどりをいっしょに踊った事、どれも忘れられない思い出になった。

2つ目は、中国の歴史を肌で感じることである。僕が一番印象に残っている所は万里の長城だ。男坂と女坂の両方を登りたかったので両方をかけ登った。男坂の急な階段は本当に死ぬんじゃないかというくらいきつかったけど、観光の所から見る景色はすごくきれいで、きつさもすぐに吹きとんでしまう程の力があつた。天安門は有名な場所だけど実際に見てみたら、テレビとは比べ物にならない迫力でみとれてしまった。

3つ目は、自分の性格を明るくしたいということだ。最初はほとんどだれとも話せなかったけど、中国に来てからは、緊張もほぐれて話せるようになった。中国人が笑顔で話かけてくれたのがうれしくて変な目で見られていないんだと感じると不安な気持ちが無くなり本当に中国をいい所だと感じられた。楽しいと思う気持ちは大切なんだと強く思った。

3つの目標は全部実現できてよかったけど、ハプニングもあった。自分のみやげに買ったヌンチャクが税関でひっかかって取調べを受けて没収されてしまったり、トランプとマジックカードを間違えて買ったりとどれも今ではいい思い出だと思う。

最後に、中国で過した6日間は本当に楽しく感動の連続だった。普通では体験できないことを6日間でいっきにやりとげたと感じている。中国の人々、鉄路第一中の生徒、ホストファミリー、訪中の先生方、訪中のメンバー、スンさん、この6日間本当にありがとうございました。そして、「謝謝！中国」



万里の長城の男坂からの景色です。  
万里の長城の大きさと男坂のきつさと景色の  
きれいさはずっと忘れられないと思える写真です。



この写真はホストファミリーのツアン君と  
いっしょにとったものです。  
ツアン君とはすぐに仲よくなりました。



## 大切な宝物



高松市立木太中学校  
国澤 由希子

飛行機から降り、中国の土を踏みしめたとき、わたしの胸は中国に来たんだという感動でいっぱいになった。と同時に、初めての海外旅行に対する期待と不安もあふれていた。

しかし、上海の美しい夜景、ホストファミリーの笑顔、雄大な山々を感じることができた万里の長城などが、不安を吹き飛ばしてくれた。中国の自然、文化、歴史、その1つ1つが今もなおわたしの目に浮かんでくる。

その中でも、特に印象的だったのはホームステイである。わたしがホームステイした所の女の子は陆璇という名前で、背が高く、かわいらしい子だった。とても英語が上手で、きれいな発音でわかりやすくゆっくりと話してくれた。

最初に会ったときこそ緊張したものの、それもすぐにほぐれて、たくさんおしゃべりをした。わたしの英語が本当に通じるんだろうかと不安に思うこともあったが、十分に通じた。ときどき意味がわからないことがあっても、お互いに一生懸命にジェスチャーをしたりして、わかり合おうとする気持ちは大切なんだと痛感した。

4日目の夜は、おばあちゃんの家で夕食会を開いていただいた。たくさんのおしゃべりしたり、おいしい水餃子をいただいたりしてとても楽しかった。その後でお母さん手作りのすいかジュースを飲みながら、テレビをみたり、楽器演奏をしてもらったり写真を撮ったりした。たくさんのおしゃべりと優しさに包まれて、とても幸せだった。別れの時は寂しかったけれど、もっと英語や中国語を勉強してまた再会しようと思い、笑顔で「再見」と言うことができた。

もう1つ心に残ったのは、万里の長城だった。万里の長城には男坂、女坂があって、どちらを登るか決めることができず、友達と、「両方登ってみよう!!」と盛り上がり結局2つとも登ることになった。特に女坂からの景色は素晴らしく、自然の美しさとお迫力を感じることができ、とてもよかった。女坂を登りきり、男坂を登るときはさすがに苦しかったが、登り終えたときの達成感は今も心に強く残っている。友達と励まし合いながら万里の長城を登ったことは、一生の思い出となった。

いろいろなことを体験し、あっという間に過ぎていった6日間は、わたしにとって大切な宝物となった。あの時あの瞬間の興奮、感動は、一生忘れないだろう。

最後に、この貴重な体験をすることを支えてくださったみなさん、団員の仲間たち、本当にありがとうございました。「謝謝!!」



ホストファミリーたちと



ホストファミリーたちと

## 中国、バンザイ！



高松市立龍雲中学校  
田 中 舜

僕は、春休みに中学生訪中親善使節団で中国へ行ってきました。上海の空港に着いた時は、日本と違い広大な国であることにまず驚きました。建物を作る技術も進んでいて、近代的な建物も予想以上に多く都会でした。また、万里の長城に登ってみると昔の中国の人のスケールの大きさにとても驚き、歴史の重みを肌で感じる事ができました。

また、中国での生活様式にも驚きました。中国では食事のとき、ほとんどが回転テーブルで好きなものを取って食べるというものでした。他にも大きな文化の違いを感じました。食事の時、「いただきます」と言うと中国ではおかしいと言われました。中国では手を合わせ食膳の挨拶をしないというのです。理由は聞けなかったのですが、日本人の食べ物に対する感謝の気持ちを改めて感じる事ができました。

三日目、四日目は高松と姉妹都市である南昌市のホームステイ先に行きました。ホストファミリーと会い、車で移動中「Can you speak English?」と聞かれ、とっさに「No!」と答えてしまいました。このままではいけないと思い、お互いの学校のことや、部活のこと、日本のアニメの話など少しずつ話をしました。話をしているうちに緊張は和らぎ、話に夢中になっていました。片言の英語でも身振り手振りを交え、一生懸命に話すと相手に通じることが分かりました。だから、英語をもっと勉強し、いろいろな話ができるようになって、もう一度来たいと思いました。

ホームステイ先には、朱宇軒（ジュ、ユイシュエン）という中学一年生の男の子がいました。中国では、十数年前より、人口増加を抑えるため、一人っ子政策をしているということでした。だからジュ君はとても喜んでくれました。僕には兄がいますが、ジュ君との語らいからもっと兄を大切にしないとダメだと思いました。やはり、兄弟がいなければ寂しいと思いました。ジュ君の中学の友達とも広場でバスケットボールをしたり、夜、サッカーの試合をテレビで見たりしました。スポーツのルールは国が違っても変わりなく、言葉が十分に通じなくても、心が通じ合い楽しめることを実感しました。六日間という短い旅行でしたが、たくさんの人たちと交流できました。この友情を忘れず何年後にもまた会おうと約束を交わしました。

ところで、使節団参加が決まった時はとても喜んだのですが、行く何日前にテレビで中国の人が領土や歴史の問題のことで日本を嫌いな人がいると言っていたのを思い出し、僕たちを歓迎してくれるのか心配になりました。ところが行ってみると、僕が会った中国の人たちは、初対面のほくに優しくたくさんのことを教えてくださいました。ところが行ってみると、僕が会った中国の人たちは、初対面のほくに優しくたくさんのことを教えてくださいました。今回の旅行の中で中国の同世代の人たちやホームステイ先の人たちと心からの交流をもてたことが一番の思い出となりました。

中国で出会った人達、お世話になった方、平野団長先生を始め、他指導をくださった先生方、家族への感謝の気持ちでいっぱいになりました。今後、僕が外国の人を迎えることがあれば今回、中国の人がもてなしてくれたように心を込めて接したいと思いました。



ホストファミリーと一緒に



なかよくなったみんなと

## 僕の中国



高松市立紫雲中学校  
篠永将太

中国への出発の直前になって、ずっと一緒に研修とかをやってきた僕の班の班長は急に病気にかかり行けなくなってしまった。出発の日の朝に、そのことを知らされた僕達は、ちょっとショックだったが、どうにもならないし、もうひとつすっかりしない気持ちで高松を出発した。

上海に着くまでは飛行機が大きな乱気流に3回も飲み込まれ、着陸してからも飛行機の中で30分も待たされたり、入国審査に1時間近くかかったりして、予定の時間を大きく過ぎてしまって、その後のテレビ塔見学はあわただしく、あっという間に1日目は終わってしまった。

2日目は上海動物園で僕が今までに見たことのない多くの動物を見たり、玉仏寺・南京路・上海博物館へ行って中国の文化や歴史を学んだ。

3日目、南昌市役所で南昌市長に挨拶をした後、インタビューを受けることになってしまった。いろいろなことを聞かれたり、たくさんの人にカメラを向けられたりして、少し恥ずかしかった。だけど、この日は、ホストファミリーに会うことになっていたのだから、ずっとそのことが気になって、何を話したのか実は全然覚えていない。

そうして、ついにその時が来てしまった。バスがゆっくりと停車をしてホストファミリーと会う予定の友好会館についた。恥ずかしさと緊張が入り交じり、じっとしていられない気持ちだったが、ホストファミリーである邱さんが優しい人だったので、ちょっと安心した。

邱さんの家に向かう車の中では、何かを話さなければ…という思いばかり空回りして結局何も言えないまま家に着いてしまった。

家に入ると子供の哈君に‘Can you speak English?’と聞かれ、僕はとっさに‘Yes, I can.’と言ってしまった。なんとかなるって思っていた。哈君からは直ぐにまだ習ってもない英文が次々に話しかけられた。僕の頭の上には？がグルグル回り、僕は固まってしまった。僕は話すことはあきらめた。それでも、邱哈君や彼の友達たちとトランプやバスケットボールをしたり音楽を聞いたりして、僕は確実につながっていたと思う。

次の日は、哈君の通っている鉄路第一中学校で交流会があり、僕の班は班長が急病で参加できなかったけど、その分班員でカバーしてなんとかみんなに楽しんでもらった。

その後、みんなで万寿宮や繁華街にいき、食事やショッピングをした。家に帰ると哈君の友達が訪ねて来てくれて、またバスケットボールをしたりカードをしたり、本当に充実した1日だった。1つ1つ書いていくと、何日分のことのようにも思えるし、一瞬だったようにも思える。言葉は相変わらず不自由だったが、それほど苦にはなっていなかった。ひとつのことを一緒にしながら同じ時間を過ごしている。一緒に笑ったり、一緒に困ったり。それだけで充分分かり合っていると感じた。この日撮った写真は僕の一生の思い出になるだろう。

5日目、邱さん一家と別れ、飛行機で北京に向かった。

天安門広場・故宮・万里の長城と日本では見られない素晴らしい景色や建物に感動した。

6日目、みんなと行動する最後の日。絶対楽しくする！と心に誓った。朝早くホテルを出て飛行機に乗り、高松へ向かうバスの中で今まで味わったことのない感情がわきあがってきた。いろいろな人の顔が頭の中をよぎった。ホストファミリーの邱さん、子供の哈君、その友達…、鉄路第一中学校で僕達のためにいろいろ披露してくれた中国の中学生たち、玉仏寺にいた大勢の物乞いの人たち…それからずっと一緒に研修したのに来れなかった僕の班の班長…。みんなどうしているだろう。僕がこの旅行を申し込まなかったら会うことのなかった人たち。こういう人が世界中にいるんだろうな。バスが高松に近づくにつれ、たった6日間だけど一緒に行動した仲間たちと別れることが辛くなってきた。

長くて短い6日間。本当に数え切れないほどの思い出ができて、僕にとって中国は特別な国となった。この旅行をお世話してくださった団長先生はじめ、多くの方々から感謝している。そうして、もしできれば、もう少し語学を勉強してから、もう1度中国を訪れ、今度はお互いが言葉でも理解し合えるようにしたいと思っている。



ホストファミリーと

## 中国を見て



高松市立古高松中学校  
西 綾希子

私が中国を見ての最初の感想は、人が多いことと、予想以上に建物の高層化が進んでいることです。日本の都市に負けないくらいビルが高かったです。話で聞いた中国よりすごく驚きました。始まったばかりの訪中。明日はどんな中国を見れるのだろうか？と、わくわくしました。

今回の訪中のテーマは歴史。私は歴史がすごく好きで、初めて日本以外の歴史や文化をその地で、学べるのだと思い、楽しみにしてきました。しかし、訪中の全てを終えた私の心にあるのは、初めて見る本当の貧富の差です。私はそれを目のあたりにしてどうすることもできませんでした。写真やTVで見えていたけどあまり実感がなく、募金活動への参加もただまわりの人がしているから、程度でした。今まで生きることに何の不思議も持たず、あたり前の様に暮らしてきました。

訪中2日目、玉仏寺見学のため、寺まで歩いていました。道には観光客が溢れていました。そして、その人達の間を、車のついたうすい板に乗った何人もの人が「Hello! Money! Money!」と言いながら、手を差し出してくるのです。手や足がない人もいたし、頭がすごく大きな赤ちゃんもいました。大人にまじって小さな男の子が、お金を求めて人々の間を歩いている光景も目にしました。怪我をした所を治すお金も、食べ物を買うお金も、家も何もない様子でした。怪我をした所には汚れたボロボロの布をまき、服もかなり汚れ、体は黒く骨ばっていました。きっと、学校に通うことができなくて、働く所が見つからなくて、こうやって生きるしかないのだと思います。そう思うと、なんだかやるせない気持ちになりました。今、一番発展し、豊かになろうとしている国から見捨てられた人達。日本ではありえない光景に呆然としました。そして、自分がいままでどれだけ幸せだったか思い知らされた気がします。つまらないことで、怒って相手を傷つけてきた自分がすごく恥ずかしく感じました。勉強は嫌。これは食べたくない。これがほしい。今までしてきたことが幸せに生きているからできるんだな、と感じました。勉強したくてもできない。食べたくても食べれない。生きたくても生きることができない。そんな人達に、申し訳ない気持ちになりました。自分に命があって、幸せであることをずっと忘れないようにしたいです。

この訪中は、私に大切なことを教えてくれたような気がします。

誰かに必要とされる人間でありたい。

誰にでもやさしくできる自分でありたい。

生きることを精いっぱいできる人間でありたい。

誰かを助けることが、できる人間になりたい。



ホストファミリーと夜景を見たよ



女坂でも大変だった万里の長城

## 初めての中国



高松市立鶴尾中学校  
土屋 紗良

久しぶりに乗った飛行機、初めての海外いろんな不安な気持ちがありつつ私の中国の旅がスタートしました。

私が最初にびっくりしたことは人の多さです。どこの町の景色を見ても人がたくさんいて高松では見たことのない景色でした。もう一つびっくりしたのが私の腰ぐらいの身長の子や手や足のない人、それにお年寄りの人たちが缶を持って観光客に物ごいをしている所です。見た時はとても胸が苦しかったです。日本では見たことないし、助けてあげたいと思っても助けられないのでよけい苦しかったです。だから、少しでもこうした人たちが、早く皆といっしょな幸せで平和な暮らしができたらいなと思いました。私の知らない中国の意外な所を知って驚いたこともありましたが、そんなことを少し忘れさせてくれたのが、故宮というとても歴史的で素晴らしい建物や、この旅の行き先でホームステイの次に楽しみにしていた万里の長城に行き、よく写真で見るとの長い坂を登ったことです。どれもすごく感動しました。

そして、私の心に一番残ったのはやっぱりホームステイです。最初に「Please call me Yuki」と言われたので、つい「Please call me Sara」と言ってしまい、ユキの本名は分かりませんでした。ユキはとても優しく笑顔がステキな子で、お父さんお母さんもとても優しい人でした。ただその日はすごく緊張して、お土産を渡したり、友達のことを少し話してすぐ寝てしまいました。ベッドの中で明日はぜったいにもっとしゃべったり、カードゲームをしようと思いました。その日びっくりしたことが、日本とちがってシャワーのすぐ下にトイレがあったのでびっくりしました。次の日は南昌市第一中学校の生徒との交流会と昼からは万寿宮やスーパーマーケットに買い物に行きました。中学の校舎の外に大きなサッカーグラウンドやバスケットコートがあったし、とても高い校舎できれいにできて私のかよっている学校とは比べものにならないほどすごかったです。交流会で中国側の人たちがしてくれた踊りや歌などはとても美しかったです。とても楽しい交流会でした。その日の晩は、ユキとお父さんとお母さんと私で「UNO」で遊びました。この旅でホームステイ先がすべて英語と聞いたので、一生懸命に勉強した英語で「UNO」の説明をしました。意外にもちゃんと通じてやり方を分かってくれたので勉強したかいがあったと思いました。「UNO」はすごく盛り上がったのでうれしかったです。その後、ユキのパソコンでアニメを見ました。この日は本当に楽しく過ごすことができ、あともう一週間は泊まっていたいと思いました。別れの朝、ユキの家族と別れるのはすごく悲しかったです。ユキのお母さんが私の横で何か言ってくれたので、通訳さんに聞いてみると、お母さんは「自分の子供にしたい。」と言ってくれたらしくてそれを聞いた時は涙が流れてきました。おいしいごはんを作ってくれたお母さん、おもしろいことをして私を笑わせてくれたお父さん、優しい笑顔で安心させてくれたユキ、本当にお世話になりました。ぜひ今度は私の家にもホームステイに来てほしいです。ありがとうございます。

私はこの旅でいろんな人に会い、いろんな体験をすることができました。一生忘れることのない旅になりました。ガイドさん、ホームステイの家族の皆さん、かげで支えてくれた私の家族、この旅にいっしょに行った団員の皆さん、本当にありがとうございます。日本でも、この旅で学んだことを胸にがんばります。「謝謝」



ユキといっしょに



みんなといっしょに

## ドキドキの中国



高松市立鶴尾中学校  
河野 有里紗

3月25日(土)、私達はみんなに見送られて、アイバル香川から中国に向けて出発しました。

知らない土地へ行くので、やはり色々な不安がありました。その中で、一番思った事は、『言葉の違い』でした。少しの英語、少しの中国語、日本語しか話せない私、どうなるか分からないけれど、がんばって色々な所を見てこよう、感じてこようと、期待を大きくふくらませて出発しました。

中国の第一印象は、都会?もっと、田舎っぽい所を想像していたけれど、実際見てみると私の想像とは、まったく違って、近代的な建物が多く驚きました。それと、自転車の多さに、またまたびっくりしました。色々見学して今回の楽しみの一つだった上海動物園のパンダが、お見合いに行っていないのが残念でした。

そして、私達と同じ中学生のいる鉄路第一中学校を訪問した時、交流会で学校のみなさんが、私達を盛大な拍手で迎えてくれてとてもうれしかったです。それから、第一中学校のみなさんが、踊りや楽器の演奏を披露してくれました。すごく上手で感動しました。私達も、さくらを歌ったり、各班ごとに考えた出し物をして(私の班は〇×ゲームでした)喜んでもらえたかなと心配しながらも、楽しい時間を過ごしました。そして、いよいよ不安と期待のホームステイです。

ステイ先の蔡思源さんに向かえられ、何を話したらいいかもわからないし、言葉も通じないし、とても緊張していたけれど、ファミリーの優しい笑顔にホッとして、緊張がほぐれた様に思います。お土産を渡したり、写真を見てもらったり、言葉に苦労しながら、わかってもらえて喜んだり、通じなくて必死に辞書で調べたり、ジェスチャーや筆談して、ホームステイ1日目はあっという間に過ぎた。

ホームステイ2日目は、蔡思源さんが友達を呼んでくれて大勢で夕食を食べました。中国=からい料理を想像していたけれど、そんな事はなくて、とてもおいしかったです。特に魚の料理がすごくおいしかったので、「ヘンハオチー(とてもおいしい)」と言うと、すごく喜んでくれて、うれしかったです。「ハオチー」「ハオチー」と連発したので、いっぱい料理を出されて、うれしいやら、苦しいやら、大変でした《笑》

その後、持って行っていたオセロ(中国にはオセロがなかったので、一生懸命、やり方を説明しました。)をして遊んだり、おしゃべりをして楽しかったです。

そして、お別れの日、私は、蔡思源さんと抱き合い、家族と別れる様な気持ちでバスに乗り込み、蔡思源さんが見えなくなるまで手を振りました。そして、最後の楽しみ万里の長城へ登りました。私は、ガイドさんから、女坂より男坂の方がきついと聞いていたので、男坂に興味を持ち、全力で登るとすごくえらくて急な階段もありすごく疲れました。けれど頂上に着いて見た景色は、とても綺麗でした。(その後せっかくなので、女坂も登りました。)今回の訪問で、私が目標としていた、中国と日本の小さなかけ橋は、鉄路第一中学校での交流、ホームステイ先でとても大切にされた事など、私的に達成できたと思います。

この長いようで、短かった6日間、たくさんの友達ととても良い体験ができた事をとても幸せに思います。それに、文化や言葉の違いがあっても、相手をわかろうと思う気持ちがあれば、国境がなくなるんだと思いました。この訪問中、お世話して下さいました先生、ホームステイの皆さん、6日間をともに過ごした友達、そして両親に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

「謝謝」



団員のみんなと

## 初めての中国



高松市立龍雲中学校  
坂 東 里 美

私にとって初の海外となった中学生訪中親善使節団での中国訪問。これは驚きの連続でした。人・車・自転車の多さや初めてみる料理の数々、高層ビルの数の多さなど数えきれない程たくさんあります。中国の昔の建造物の美しさにもビックリしました。

3月25日出発の日、あまり話をしたことのない他の中学の友達との中国への旅！に胸はドキドキでした。でも心配はすぐに消えました。賑やかなバスの中で自然にみんな仲良くなっていました。飛行機で2時間くらい飛んだら中国でした。案外中国と日本は近いんだ…と思いました。でもそんな中国と日本にも時差があるんですね。たった1時間ですがここにやはり距離を感じました。

中国で一番最初に行ったテレビ塔はとて大きく本当に驚きました。そして其処から見た夜景は最高に綺麗でした。また向こうでの中華料理は日本で食べるより油っぽく、独自の香辛料でも入っているのか独特の味がしました。いろんな場面で、またいろんな意味で私が思っている中国と本当の中国は違っていたように思います。

そんな中、私がこの旅で一番心に残っているのはホームステイです。私は生まれて一度もホームステイなどしたことがなかったので本当に緊張しました。私は英語が全く喋れないのでどうやって話そうか…心配で心配でたまりませんでした。ホストファミリーに会いに行くバスのなかで何について話そうかと考えていました。でも実際にホストファミリーに会うと今まで考えていたことが全部頭からとんでしまいました。私のホストファミリーの女の子は曼琳ちゃんという南昌市鉄路第一中学校1年のかわいい子でした。私は彼女のことをヨーヨーと呼び、彼女は私のことをサトミと呼びました。ヨーヨーは英語が本当に上手で私の間違いだらけの英語を必死に理解しようとしてくれました。私は自分で持ってきた友達や家族の写真をたくさん見せて話を盛り上げました。ヨーヨーのお父さんもお母さんもとてもいい人で私のことを凄く気にかけてくれました。

彼女の家で1つ驚いたことがあります。それはお風呂でシャワーとトイレが一緒になっていたことです。日本とちがうんだなあと思いました。私がお風呂から出るとヨーヨーのお母さんが私の髪を乾かしてくれました。ちょっと驚いたけど嬉しかったです。ヨーヨーのお父さんとお母さんの作る料理は本当に最高でほっぺが落ちてしまいそうでした。とてもたくさんの料理を作ってくれて改めて歓迎してくれているんだなあと実感したと同時に嬉しかったです。こうして私の初のホームステイは終わりました。別れるときは本当に悲しくて泣いてしまったけど出会えて良かったと心の底から思いました。

今回の中学生訪中親善使節団を通して、私の知らない見えていなかった本当の中国をたくさん見たり、また向こうの中学生と交流できて良かったです。このような素晴らしい体験をさせて頂き感謝の気持ちでいっぱいです。平野団長、池内さん、橘さん、そして使節団を支えてくださった皆様本当に世話になりました。今後、日中の友好のため少しでも自分の体験をいかしていけるよう努力をしていきたいと思っています。有難うございました。



ホストファミリーと



かぶっ

## 謝々！中国！



高松市立光洋中学校  
竹内 優子

中国の地に足をつけた。あの瞬間は今でもしっかり覚えています。「遂に来たんだ。ここは日本じゃない。」そう思い、うれしさや期待が込みあげ、不安が一気に消えてゆきました。

私が中国に行きたいと思った理由には、実際に中国の歴史や文化財にふれてみたいと思ったということがあります。だから、ずっと憧れていた、万里の長城に登れた時は、すごくうれしかったし、あまりの高さに驚きました。上から見る景色の壮大さには、さらに驚かされました。世界遺産に登録されている理由もなんだかよく分かりました。他にも、天安門広場や滕王閣、玉仏寺など、中国の素晴らしい歴史や文化にふれることができてよかったです。しかし、玉仏寺などの前には、お金を求めてくる老人や小さな子供、体の不自由な方がたくさんいました。日本では、あまり見られない光景に、すごく心が傷みました。自分は何て幸せなんだろうと、すごく実感することとなりました。

次に、すごく楽しみにしていたホームステイについてです。私が、お世話になったのは、<sup>ホァンシェン</sup>黄軒ちゃんという子の家です。軒ちゃんは、私と同年にも関わらず、英語が上手でとても優しい、気の利く女の子でした。私は特に英語が得意でもなく、一日目は、持ってきた写真を見て話すことが精一杯でした。しかし二日目は、軒ちゃんの妹の家に行って、おじいちゃんやおばあちゃん、親せきの方々とたくさん話すことができました。軒ちゃんの妹も、十一歳なのに、英語が上手でした。私には分からない単語もたくさん知っていて、自分をもっとがんばって英語を勉強しなきゃいけないと改めて思いました。軒ちゃんのお父さんはすごく気を使って、あまり話せなかったけど、歓迎してくれているのがすごくよく分かりました。お母さんは、おいしい手料理をごちそうしてくれたり、お風呂の後、髪を乾かしてくれ、優しい人でした。たった二日間のホームステイなのに、すごく歓迎してくれ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。言葉が通じなくても、気持ちは通じ合えるということがすごくよく分かる体験となりました。

この旅を通して、中国の良い所も悪いところも見えました。それに、一生忘れない素晴らしい旅になったはず。たくさんの人と出会い、また別れをしましたが、皆さんに改めてお礼を言いたいです。この旅で学んだことを、これからの生活に少しでも生かしていきたいと思います。

最後に、この使節団に参加させてくれた、お父さん、お母さん、引率の皆さま、団員のみんな、こんなに楽しかったのは皆さんのおかげです。本当に、感謝しています。ありがとうございました。



万里の長城 男坂にて



南昌 滕王閣にて



## 6日間の思い出



高松市立龍雲中学校  
上 枝 里依子

「すっげえ。」

この言葉から始まった中国の旅。予想以上に発展し、高層ビルやマンションがあちこちにある中国。自転車の交通量はもちろん車の数も日本より多かった。そして、どこへ行くにも人がたくさんいた。日本とは違う中国でどんな旅になるのだろうかと楽しみにしていた私は、中国を見てますます期待が大きくなっていった。私が一番に期待し、そして不安だったのが2日間のホームステイ。新しい友達が出来るといふ楽しみと、言葉はきちんと通じるかという不安な気持ちがあった。私が家に着くと、家族みんなが笑顔で迎えてくれた。私を本当の家族のように接してくれて、とても温かかった。私のことを必死に理解しようと、ジェスチャーを使ったり、絵をかいて説明してくれた。そのおかげで、緊張していた気持ちもしだいにほぐれていった。夜は、話で盛り上がった。話しているうちに、日本との違いをいくつか発見した。日本では、毎日お風呂に入ると言ったら、とても驚いた顔をして、急いでお風呂の準備をしてくれた。ホストファミリーのみんなは毎日入らないそうだ。でも、違うところだけではない。日本でもかかっている「チャングムの誓い」というドラマは中国でもかかっている、人気があると言っていた。私もそのドラマは見ているので、とても話が盛り上がった。私が、日本で見ていた時、中国でも見ている人がいたのだと思うと、日本と中国のつながりを感じた。お互いの国について教え合うことで、新しい発見や、驚きがあってとても楽しかった。また、日本では何を食べるのかを聞かれたので私が魚の話をする、2日目の夜ご飯は魚料理を出してくれた。でも日本の味つけとは違って、中国らしい味つけを味わうことができた。他にも、たくさんの料理を作ってくれて、どれもおいしかった。別れの朝。ホストファミリーと別れるのは悲しかったけど、日本に帰ったら手紙を送ると約束をして、手を振った。

私は、中国の建物も心に残っている。中国の建物は、とにかく大きい。それと色づかいがおもしろい。歴史ある建物は赤色をしていた。赤と黄の色は昔の王様の色づかいだったそうだ。日本の建物とは違い、中国の文化に触れることができた。中国の建て物の中では、万里の長城が心に残っている。万里の長城はとても大きくて、長い。端から端までは1年くらいかかるそうだ。私は、女坂を選び、一步一步景色を楽しみながら登った。その景色はとても美しく、登ってよかったと思った。登るのは苦しかったけど、達成感があった。今度は男坂に挑戦したい。

私はこの6日間という短い旅の中で日本と中国の文化の違いやホームステイで得たことはとても貴重な体験となった。そして、この中国の訪問で私が学んだこと、感じたことを多くの人に伝えたい。そして、中国に少しでも興味を持ってもらいたい。それが、私達団員としての役目だと思う。私は、これからも国際交流を活発にすることで、お互いに理解し合える日がくると思う。そして、南昌市と高松市の交流もより深まることを願っている。



ホストファミリーと一緒に



万里の長城で友達とハイ、チーズ！

## 訪中を通して感じ、考えた事



附属高松中学校  
中村志織

「中国の人との交流を通して文化を知る」

行く前に立てたこの目標は、ホームステイ先ではもちろん、上海でも達成されました。

上海駅で私は皆と離れ、上枝さんと西尾さんと話していました。すると、向かいの椅子に座った女性が話しかけてきました。彼女は日本語を勉強していて、しばらく私達の会話を聞いていたそうです。しかし、私達の話していたスピードは速くて内容はほとんど聞きとれなかったそうです。「これからどこに行くのか」など筆談を交えながら話している内に、彼女の乗る列車の時間がきてしまい、私達は別れなければなりません。しばらくして私達も列車に乗りましたが、車内では翌日ホストファミリーに会う事への不安が消えませんでした。けれど、ほんの少しの時間、内容でも中国の方と話した事は私の中で少しの自信を生みました。

朝になり、私達は列車を降りて日中友好会館で朝食を摂った後、南昌市内の見学に行きました。滕王閣の後に行った秋水広場では、日本語を勉強している大学生達に会いました。彼らはとても気さくで、話をしたり一緒に写真を撮ったりしましたが、すぐにバスの時間が来てしまい、残念でした。

その後、市内の見学と人民政府の表敬訪問を終えた後に友好会館に着くとホストファミリーは既に来ていて、一緒に家に帰りました。私がお世話になった家は周さんといって、1つ下のニナという女の子が居ました。ニナと私は一緒にテレビで「西遊記（コメディにアレンジされていました）」や日本のアニメ「犬夜叉」を観ました。上海の本屋で買った本にも日本のアニメは載っていましたが、日本のアニメを中国語の字幕付きで観るのは不思議な気分でした。

鉄路第一中学校の交流会では素晴らしい出し物を見せてもらい、たくさんの人と交流をしました。中には日本語を話そうとしてくれる人もいて、とても嬉しかったです。「中国では日本語が人気」という事を聞いたので、日本にも中国語ブームを作り出したいと思いました。

上海駅の女性、南昌の大学生、鉄路第一中学校の生徒、そして誰よりホストファミリー達との出会い、話した事はとても貴重な体験で、一生の思い出になると思います。皆日本語を勉強している所だったり、日本の事を知りたいと言ってくれたりして、中国は良い意味でも悪い意味でも日本と関係の深い国です。これからも互いの文化が受け入れられていくといいと思います。



日中友好会館でホストファミリーと



秋水広場で南昌市内の大学生達と

## 僕の中国



附属高松中学校  
谷本浩一

3月25日、やっとこの日が来た。三回の会合の仲間の中で僕も興奮で笑みがこぼれました。

関空では上海まで3時間程かかると言われましたが、その3時間は短かく、あっという間に着いてしまいました。上海空港からバスで世界第三位の高さを誇るテレビ塔へ行きました。派手にライトアップされていて、遠くからでも一目で解るほどでした。真下からでは深くしゃがみこまないと上が見えず、ただ大きいなあと圧倒されました。展望台は地上から263メートル！そこまでエレベーターで約1分かけて上がります。そこは周りが全てガラス張りで、車が豆つぶのように見えます。夜だったので海は黒く、街は白でした。

次に初めて本場の中華料理を食べに行きました。野菜や海老、川魚など色々な料理が出てきて日本で食べたどんな中華料理よりもおいしかったのですが、これまでに無い油っこさでした。

次の日、上海動物園に行きました。しかし、その日はパンダは残念ながら故郷へ帰っていたため不在でした。その代わりに園内で太極拳をしている人達に偶然会いました。さすがに園内で太極拳をしているのは驚きました。ホッキョクグマやオオカミなど多くの動物がいて敷地内に林や公園がある大きな動物園でした。

昼食後、「南京路」といういろいろな店が建ち並んでいる大通りへ行きました。マクドナルド・ハンバーガーや日本のラーメン店、大型ショッピングセンターがありました。ショッピングセンターの一階では、日本の電化製品が売られていました。買い物の際は大半の店で英語が通じたため、とても便利でした。

その日は南昌へ移動する夜行列車の中で一泊しました。四人一部屋で、荷物が置かれるととても狭くなってしまいました。

翌日は、ホームステイをする日でした。ホームステイは初めての体験で、名簿に書かれてある「熊 凱舟」という同じ位の年歳の人が気が合えばいいなと思っていました。

家族全員で僕を出迎えてくれて、その人の家に行きました。そこで驚いた事は、風呂場が日本のものと全く違っていったことです。寝る前にその子と簡単な話を英語でしました。自分の英語が伝わったことが、とてもうれしかったです。

5日目、万里の長城へ行きました。実際に石垣を近くで見ると、大きな岩を並べただけのもので、登りやすくありませんが、高い所から見ると山脈に沿ってどこまでも続いています。テレビで見た以上に美しいことにとっても感動しました。

中国は僕が思っていた以上に都市が発展していたこと、中国の物価が予想以上に安かったこと、中国の文化遺産には日本文化とは異なる所の美しさがあることの3つの事を知ることができた訪問でした。

また機会があれば行ってみたいと思います。



本場の中華料理を食べる



熊 凱舟君と

## 感動の中国訪問



附属高松中学校  
宮脇万鈴

久しぶりの旅行。しかし今回はいつもと少し違う。「中学生訪中親善使節団」の団員として中国に行くのだ。中国に着くまでの間、これまでの旅行では感じたことのない大きなプレッシャーと、期待と不安が入り混じりとても落ち着かない時間だった。

今回の訪問先は上海、南昌、北京。

上海に到着しテレビ塔、南京路などを見学。

建築物の大きさ、人のすごさ。「中国」のスケールの違いを実感した。上海動物園、上海博物館、玉仏寺では足早の見学だった。残念だったのは一番楽しみにしていた上海動物園のパンダが見られなかったこと。お見合いのために帰っているのだ。中国＝パンダの図式だった私にはちょっとショックだった。もうひとつショックなことが。玉仏寺の入り口で缶を持った孤児を見たこと。食べ物やお金を私たちに求めているようだった。中には病気で頭が大きくなってしまった子供を連れてくる人達もいた。胸が締めつけられた。目をあわすことができず、下を向いて歩くしかできなかった。急成長する中国。しかし、その中にはこういう人たちもいるのだと実感した。日本では浮浪者はみかけたことはあるが、孤児を見たことはない。たくさん問題を解決して彼等からはやく笑顔が見られるようにと祈った。

夜行列車で上海から南昌へ。到着後市内を見学し、いよいよホームステイ先へ。中国語はまったくダメ。英語も自信のない私。短い自己紹介をしたが、車に乗った後はまったく話がない。あせる私。何度かお父さんに話しかけられたが緊張してうまく答えられない。家に到着するとお母さんが笑顔で出迎えてくれ、改めて自己紹介をした。やさしく話しかけられても数少ない単語でしか答えられず緊張のとけない私を気遣って「散歩にいこう」と誘ってくれた。散歩しながら、家族のこと、趣味のこと、好きなものなどを少しずつ話すうちに、緊張がほぐれ打ち解けあうことができた。

家に戻ってから献媛(シェンユエン)ちゃんが中国の踊りを披露してくれた。また記念としてプリクラとお互いの国のコインを交換した。シャワーを浴びた後、お母さんがドライヤーで髪を乾かしてくれた。ホストファミリーは家族が大変に仲がよく私をまるで本当の家族のように接してくれた。

ホームステイ二日目。南昌市第一中学校へ。

中学と高校がひとつになっているらしく校舎は大きく広がった。交流会が始まり私たちのグループでは日本の文化についてクイズ形式で紹介したのだが、問題はほぼ正解だったことに驚いた。日本のことをかなり勉強しているのだと感じた。クイズの中で私は空手道の型を披露した。いつもの練習とも試合とも全然違う雰囲気。張り詰めた緊張。空を切る音と胴着の衣擦れの音。最後に気合いの声を出す。訪中使節団の団員として文化の交流の橋渡しのお手伝いのひとつが出来たのだとたくさんの拍手と大きな歓声をうけながら実感した。

夜はホストファミリーと一緒に商店街へ行き夕食をごちそうになり、商店街を案内してもらい楽しい夜をすごした。別れの朝は、お母さんが水ギョウザを作ってくれた。本当においしくてたくさん食べながらも、別れの時間がせまっているつらさがのどの奥にこみあげてきた。会話もごちなく英語もおそまつな私を、細やかな気遣いと心配りで優しく包んでくれたホストファミリー。言葉の壁はあっても相手のことを慮ることが大切なのだと感じることができたのが私にとって大きな収穫だ。楽しい時間と思い出をありがとう。謝謝!

南昌に別れを告げ一路北京へ。おびただしい自転車と人の数。故宮博物館、天安門広場、万里の長城。ここでもまた中国のスケールの大きさに圧倒された。壮大な中国四千年の歴史に脱帽。

ずいぶん足早な旅だったと思う。しかし私はたくさんものを手に入れた。見て聞いて感じたことはきっと無駄にはならない。この体験をどう生かすかが私のこれからの大きなテーマだ。この旅の間中、ずっと体調不良でたくさんの人に心配とご迷惑をおかけした事を本当に申し訳なく思っている。この旅で出会ったすべての人に心から感謝をこめて「ありがとうございました!」「謝謝!」



動物園ではカートに乗って移動



献媛ちゃんと

## 忘れられない中国への旅



高松市立紫雲中学校  
柴田 明有美

どれくらい飛行機にのっただろうか…？飛行機の窓から中国の大地が見える。「わあ、いよいよ中国だ！」と、心の中で思い、うれしさのあまりそこらじゅうでさわぎたくなかった。何か月も前から楽しみにしていた中国訪問がいよいよ始まるということで、私の心は、期待と不安が入り混じっていた。

空港から出ると、聞き慣れない言葉、平仮名がなく、漢字ばかりの見慣れない看板…。本当にこんなところでやっていけるのか？私の心の中の不安は大きくなるばかりだった。

不安ととまどいでむかえた市内見学。高層ビルの多さにただただ圧倒させられるばかりだった。私の中にあった「日本より田舎」という中国のイメージはここでくつがえされた。一日目に見た「東方明珠テレビ塔」の高さは、まるで中国の進展のシンボルであるかのようにだった。

そして初めての夕食。大きな回転テーブルの上へのせられた、たくさんの中華料理…。どれも美味しそうで、どれから食べようかしばらく迷った。どれを食べてもとっても美味しい。こんな料理を6日間食べられるんや…。そう思うだけで幸せだった。

そんな驚きが続くなか、遂にホームステイのときがきた。言葉の壁をとっても心配していた私だが、どうやらその心配は不用だったようだ。私のホームステイ先の鍾 婉榮ちゃんは、私を優しくむかえてくれた。日中友好会館から家に向かうまでの車の中で、婉榮ちゃんは中国のことをいろいろ教えてくれた。とても不安だった私にたくさん話しかけてくれて、とても心強かった。夜、寝るときは婉榮ちゃんのベッドを貸してくれて、とてもよい眠りにつくことができた。朝はなんと婉榮ちゃんが日本語で「し・は・た・あ・ゆ・み」と起こしてくれたのだ！

そしてホームステイ2日目。ホームステイ先のお母さんが、私にいろいろなことを教えてくださった。お母さんは中国語しか話せなかったが、見ぶり手ぶり、私に必死に教えてくださった。こんなに私のことを思ってくれているのかと思うと、うれしくて涙が出そうになった。その晩、秋水広場のライトアップされた噴水を見に行っただ。私たちは本当に心の底から噴水を楽しんだ。言葉が通じなくてもこんなに仲良くなれるんだ…。私はそう思い、とてもうれしくなった。

別れの日。たった2日だったけどこんなに仲良くなった私たち。この日がこないことをずっと願っていた。しかし、時間というものには止まらず、あっという間に別れの時が来てしまった。まるで自分の家族と別れるかのようにつらく、涙が止まらなかった。またいつか絶対に会おうと約束し、私はバスに乗った。それからしばらくは、私が何か考えようとすると頭の中に婉榮ちゃんの顔が浮かんできてとてもつらかった。

そんな思いで南昌を去った後、私たちは北京へと向かった。さすが中国の首都、北京。街にはたくさんの人があふれていた。

私はこの訪中で、たくさんのことを学んだ。その中でも一番学んだことは、「言葉が違ってても、お互いに通じ合える」と、いうこと。たとえ言葉が通じなくても、こちらが必死になって伝えようと、あちらも分かってくれる。そう、同じ人間なのだから…。

日本と中国は、文化も違うし言葉も違う。しかし皆地球に住む仲間なのだ。この訪中を通して、私たちが交流のかけ橋になれたのならとてもうれしい。これからも、高松、いや日本の中学生の代表として中国を訪問したということをお忘れずに行動したい。そして、これを機に国際交流活動を続けていきたい。

最後になりましたが、お世話になった皆様、本当にありがとうございました。それではまた会う日まで、再見！



鉄路中学校との歓迎夕食会にて



楽しかった夜行列車での旅

## 私の中国滞在記



高松市立紫雲中学校  
井 垣 あかね

中国の地に一步踏み出したとき、まるで別世界のような。群がるような、車。イルミネーションされたビルや、マンション。唖然とした。(なんだこりゃ〜!!中国とは、こんなに発展していたのか!!)正直を言って、これが第一印象だった。

この旅で、私は3つの事に気づかされた。

1つ目は、中国の近代化と貧富の差である。私は、いつも上を見上げていた。特に上海・北京では、ただただ見上げるしかなかった、高層ビルやマンション。その数といい、大きさといい、ビルとビルとの間隔といい、やはり全く日本と違って。身近で言うと、サンポート高松のシンボルタワー、あの建物が、四方八方に立っている感じだ。想像できるだろうか?町の中心部すべてが、神戸のルミナリエのように、イルミネーションで光り輝いていた。(なんて美しいのだろう!)そう思った時、ある疑問が浮かんだ。高層ビルの中に何かあるのだろうか?その答えは、高級ホテルや省・国関係の建物もあるが、そのほとんどは、古いぼろぼろになった家が立ち並んでいた。驚くが、事実だった。

そしてこの旅では、たくさんの有名な観光地を見て回った。大昔から、栄えていた国の象徴的シンボルや伝統的な文化を見ることができた。その輝かしい建造物と一緒に、えっ!と思わせる光景を見た。

あれは、玉仏寺に行った時だった。向こうから、コロコロのついた板に乗った人たちが、近寄ってくる。よく見ると、周りの中国人と違う。ぼろぼろな服と穴があいている靴を身にまとっている。また、ある人は、障害をわずらっている。そして、物乞いをしていた。それも、子供も一緒になって。ある大人は、お金をもらうために、障害のある子供を使って、必死に訴えていた。見ていて怖い思いがした。なぜこの国の人達、政府は、見てみぬふりをするのだろうか…(これが、貧富の差の激しい今の中国なのか)考えさせられる出来事だった。少し前までは、共産主義と聞いていたはずなのに、驚きである。一日でも早く、貧富の差がなくなるよう祈る気持ちでいっぱいになった。

2つ目は、国際化によって英語での会話が大切になっていること。中国の中学生は、英語がべらべらなのだ。私はというと…実践英語になれていないのも、辛いものだ。ジェスチャーで受け答える度胸もない。ホームステイ先のリュウヤンさんに伝えたいことが、うまく言い表せないことが、多かった。彼女が言っていることが、半分も分からないのだ。ただ、口をぽかんとあけて、うなずくしかなかった。そんな時、やっぱり英語はマスターしなきゃ、やっていけない、と肌で感じた。この旅の難関は、ここなのかもしれないと痛感した。それに気づかせてくれたリュウヤン一家、ありがとう。

その一方、(早く日本に帰りたい〜!!)と心細い私に、ホームステイ先のリュウヤン一家は、優しくして下さり、みんなでバドミントンをした時は、言葉が通じなくても楽しかった。そして、おいしいご馳走を作ってくれた。孤独で辛い私の心は暖かくなった。また、中学生とはいえ、日本から5泊6日も離れていたら、少し寂しく、ホームシック気味な私を救ってくれたのは、キャサリン先生、池内先生、橘先生をはじめ、団員のみんなの笑顔とおしゃべりだと、心の底から思う。この訪中親善使節団で出会った人達みんなが、お互いをいたわり励ましあって、その時を楽しんだ。人と人とのつながり、ふれあいの大切さ、これが私の3つ目に気づいたことだ。

今すべてを振りかえると、あっという間だったが、人生の大切な宝、財産になった。もっと、あの使節団のみんなと一緒にいたかったなあ。またどこかで、会いたい。こんなに素晴らしい機会を与えてくれた両親に、心から感謝している。



天安門広場で



リュウヤンさんと

